

第3回稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議 会議録

【日 時】 令和3年1月28日（木） 午後3時～午後3時50分

【場 所】 稲沢市役所議員総会室

【出席者】 稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議委員（敬称略）

秀島栄三 名古屋工業大学大学院工学研究科教授

小森昌哉 共栄食品株式会社代表取締役

柴田宗敏 愛知県立稲沢高等学校教諭

白橋正樹 稲沢金融懇話会幹事

伊藤香太 公募

田口そら 公募

〈事務局〉

篠田智徳 市長公室長

吉川修司 企画政策課長

岡部雅憲 企画政策課主幹

野中知華 企画政策課主任

【議事次第】

1 市長公室長あいさつ

2 議事

(1) 第2期稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

(2) その他

3 市長公室長あいさつ

【会議の概要】

1 市長公室長あいさつ

第3回稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議の開催にあたり、一言あいさつ申し上げます。

本日は皆様大変お忙しい中、第3回稲沢市まち・ひと・しごと創生戦略会議に出席を賜りまして、誠にありがとうございます。コロナ禍による緊急事態宣言が発出されている状況下ではありますが、第2期市総合戦略を今年度中に策定するため、委員の皆様にお集まりいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

先にお配りしました資料は、先回の会議にて委員の皆様から御意見いただいた内

容に基づき、各部課への聞き取り等を行い、内容の充実化を図ったものでございます。

本日は次第の協議事項にあるとおり、お配りした資料の『第2期稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）』について、委員の皆様から忌憚のない御意見をいただけたらと考えております。

本日の会議後、2月1日から市民参加手続であるパブリックコメントを実施し、市民の皆様から御意見をいただきます。その後、パブリックコメントでいただいた御意見を反映した第2期市総合戦略の最終案について、3月の第4回戦略会議にて委員の皆様にご審議いただき、策定、公表といった流れになります。限られた時間の中ではございますが、皆様の活発な議論をいただきますようお願いいたしまして、私からのあいさつとさせていただきます。

2 議事

(1) 第2期稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

[会長]

まず、本日の議事の(1)「第2期稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について」、事務局から説明をお願いします。

=事務局=

第2期稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について説明【資料】

○質疑

[委員]

基本目標(4)の数値目標が「効率的・効果的な行政運営（市政世論調査・満足度）」となっていますが、この指標の数値が大きくなった方が良いという考えですか。また、今までにも計測していた数値でしょうか。

[事務局]

本指標の数値は、市が隔年で行う市内在住の満18歳以上の方から無作為抽出した2,500人を対象に調査した市政世論調査の結果で、継続的に計測している数値です。

今後、行政手続のオンライン化・電子処理化を促進し、市民の利便性を高めることで、数値目標の値が向上するものと考えております。

[委員]

基本目標（１）の数値目標が「社会増」となっています。人口の増減からあえて自然増減を除いた指標を設定したのですか。

[事務局]

人口について、本市に限らず国全体で死亡数が出生数を上回り、自然減が進んでいる状況であるため、「社会増」のみを切り取り指標としました。

[委員]

第２期市総合戦略案の指標や事業に対しての意見は庁内である程度整理されたようなので、第２期市総合戦略に対する全体的な感想、意見等を委員の皆さんからお伺いしたいと思います。

[委員]

私は、将来３人以上の子どもを持ちたいと考えており、また、自分の子どもが幸せになれるかどうかを基準として考え行動しています。このため、基本目標（２）「第２子、第３子が生まれる環境をつくります」という方針を市が持っていることはありがたいことだと感じました。

しかしながら、自分の周囲には子どもを持ちたいと考えていない人もいることから、若者世代にそのような子育て支援策が本当に求められているのかを調査してほしいと思います。

また、私は卒業後には市外で働こうと思っていますが、いずれは本市に帰りたくとも考えています。帰ったときに本市が活気のあるまちであるように、雇用拡大等の産業振興にも取り組んでほしいと思います。

[事務局]

結婚・出産については個人の意志、希望によるものなので、第２子、第３子を持つことを強制するものではありません。

国は、第１期総合戦略を策定する際に、結婚や出産に対する価値観や子育て環境による評価等を把握する調査を行いました。その結果、独身者のうち９割が結婚したい、子どもを２人は持ちたいという結果が出ました。その希望が実現していないのは何らかの障壁があると考えられます。合計特殊出生率を引き上げるに当たり、市単独での施策効果は非常に限定され、企業の考え方や国の施策、国民の意識等に因るところが非常に大きい面があると考えます。しかし、一地方自治体といたしま

しても、その障壁が何かということを探り、それに対して少しでも施策を打っていく必要があると考えております。第2期市総合戦略案の基本目標（2）で掲げた施策を中心に、合計特殊出生率の向上を図るため、子育て支援等の様々な施策を検討・実施してまいります。

[委員]

前回の会議を欠席したからかもしれませんが、第2期市総合戦略案を読んでも「市のブランドイメージ向上」等を始め、それぞれの施策や事業の具体的なイメージが沸きませんでした。

[事務局]

第2期市総合戦略案の構成は、4つの基本目標があり、その基本目標を達成するための施策の方向性を示す基本的方向があります。それぞれの基本的方向に主な事業が記載されており、各事業の概要について第2期市総合戦略案の p.31 以降に記載しております。

市のブランドイメージについては、ブランディングとは、「人々が企業・商品に抱く良いイメージを醸成すること」であり、地域の「ブランド」はすなわち他自治体との差であると考えます。

また、マーケティング用語で「ブランドエクイティ」という考え方があります。「他社と比較しての自社の強み」という意味ですが、エクイティとは「資産」という意味を持ちます。ブランドとは企業・商品が顧客に対して提供してきた良いイメージの蓄積（＝資産）にほかなりません。ブランドは一朝一夕では形成できず、長期の取り組みが必要ということです。

今後、本市のブランドエクイティを高めるため、施策やPRを展開し、良いイメージの積み重ねに努めていきたいと考えております。

市においてブランドイメージ向上のために取り組む事業の例としまして、シティプロモーション事業のほかには、ふるさと応援寄付や観光まちづくり、スポーツのまちとしての情報発信があげられます。本市の観光まちづくりについては、京都や奈良に代表される物見遊山的な観光ではなく、その土地ならではの体験や学び、人々との交流を楽しむ旅行など、観光をツールとして産業振興や地域への愛着醸成につなげて、まちの活性化に取り組みたいと考えております。

また、前回の会議では本市に「スポーツのまち」のイメージはないとの御意見をいただきましたが、今年度、本市に「豊田合成記念体育館（エントリオ）」がオープンしました。今後、プロスポーツチームのホームという地域資源を活用して本市の

まちづくりや情報発信をしていきたいと考えております。

[委員]

目標値について全体的に整理された印象を受けました。今後は、事業やK P I等の数値の推移が見えると議論しやすいと思います。推移が見えない場合は議論が抽象的になり具体性が乏しくなることを危惧します。

また、他府県の事例を引き合いにして本市でできることはないかと事務局から提案してもらえると意見を出しやすいと思います。

[事務局]

第2期市総合戦略案について、基本目標から指標や事業までの流れを持った戦略になっていないとの意見もいただいております。基本目標等への指標の設定について、民間では利潤の追求が絶対ですが、行政では様々な観点からの事業実施が求められ、数値のみでの評価、把握は非常に困難であると感じております。

本会議の場では他の先進的な自治体との比較はできておりませんが、庁内各課のヒアリングの際には他自治体の事例を参考に検討し、主な事業、K P Iの設定等をしております。

[委員]

数値目標やK P Iは、目標設定の根拠が示されないと事業の評価ができないのではないのでしょうか。

また、K P Iについて進捗や社会情勢の変化にあわせて再設定するという考え方もありますが、どのように考えていますか。

[事務局]

各指標は、事業進捗の判断材料にはなりますが、それだけでは事業の評価はできません。第1期市総合戦略の進捗評価のように、数値とあわせて書き物での振り返りの両輪で各事業、施策の評価をしたいと考えています。

また、K P Iについて評価の基準をコロコロと変えるのは適当ではないと考えております。

[委員]

第2期市総合戦略案のK P Iに市民満足度を指標としているものがいくつかありますが、本市に住み続けていくにあたって重要な視点だと思うので、満足度によ

る評価は大切にすべきだと思います。

また、本戦略は人口減少対策がベースの計画であることから、本市のことを広く発信するシティプロモーション事業は大事なことです。今後、市の取組みを注視していきたいと思います。

最後は要望になりますが、是非、教育現場のICT化を推進してほしいと思います。知人に不登校の生徒がおり、学ぶ意欲があるにもかかわらず、学校に通うことができない事情のある子がいます。オンライン授業などICT技術を活用して、そうした子たちも教育が受けられるようにしていただけたら良いと思います。

[事務局]

国が進めるGIGAスクール構想の取組みとして、本市も今年度中に学校施設のネットワーク強靱化を図り、生徒一人一台のタブレット端末を整備します。

現時点では整備するタブレット端末は校内での利用のみを想定しております。端末を持ち帰り、家庭での学習に利用するにはセキュリティや通信環境の問題もありますので今後の課題だと考えております。

[委員]

教育現場のICT化の推進は良いことだと思いますが、教員の多忙化も問題です。学校で新しいことを始めるのは良いのですが、教員達は今の業務で手一杯の状況です。児童生徒のために宝の持ち腐れにならないよう、ICT支援員の配備など人員の配置もあわせて行ってほしいと思います。

[事務局]

ICT支援員については、来年度、市内小中学校に、数校に1名ずつの人員を配備する予定です。業務内容は教員の研修支援等を中心に検討しているところです。

[委員]

指標などが整理され、全体的にシンプルになった結果、中身がわかりにくくなった部分もでてきたと思います。記載されている各事業に具体性のある数値目標をつけてはどうでしょうか。

「観光まちづくり」については、祭りのような単発の事業ではなく、継続的に本市に来訪してもらえるような取組みを検討すべきだと思います。また、シティプロモーション特設WEBサイトでは、通勤に便利、緑が多い、相応の値段で戸建てを持てるといった情報を発信してはどうでしょうか。コロナ禍により、人々の住環境

に対する考え方が少し変わってきているようなので、本市の魅力を伝えることができます。

子育て支援施策等について、市内に向けた情報発信はしているようですが、例えば「主体的保育の勉強会」をしていることなどを市外にも向けて、シティプロモーション事業の一環として発信をすべきだと思います。特色のある「新しい教育プログラム」や「給食アレルギー対応」など、経済的な支援以外にも外部にアピールできる本市の魅力的な取り組みはあると思います。

農業について、市内は田畑が占める割合が多いですが現状の米価や市場での農産物の需要をみると、多くの市民の生業としては非常に厳しいものがあるといわざるをえません。

市内で生産される野菜等に、年間を通して全国的に競争力のあるものはどれだけあるのでしょうか。いわゆる農業県といわれる地域では、安くて大量の農産物を、年間を通して生産することができます。新しい農産品の開発や集約化等のアプローチがなければ、本市の農業は将来的には持続が困難になってくると思います。

キーパーソンの発掘や法人への依頼など、持続的に経営できる農業への切り替えについて、具体的な検討をすべき時期だと思います。

[事務局]

「主体的保育」につきまして、庁内各課ヒアリングの際に本市の保育園では2歳児が散歩の行き先を会議で決めるという話があったことから、K P Iとして第2期市総合戦略案に記載したものです。子どもを単に預かるだけではなく、子どもの主体性を尊重した遊びや生活ができるよう環境を整え、知識だけでなく非認知的能力を育む本市の特徴的な保育を発信していきたいと考えました。本市ではこうした先進的な保育が実施されており「2歳児が会議する保育園」を市のブランドとすることで、直接的な給付事業以外の保育の中身で他市と差別化できたら良いと考えております。

(2) その他

[会長]

次に、議事の(2)「その他」について、事務局から説明をお願いします。

[事務局]

今後の予定について報告いたします。

本日の御意見も踏まえまして『第2期稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略』

の案を固めさせていただき、その案について広く市民から意見を募るパブリックコメントを2月1日から2月28日まで実施します。その後、取りまとめた市総合戦略を3月23日（火）午後3時から開催されます、第4回会議にて提示させていただきますので、引き続きよろしく申し上げます。

○質疑

ほかに意見等はございませんでしょうか。

特に意見等ないようですので、これで会議を終了したいと思います。その他、事務局から何かあればお願いします。

[事務局]

本日はありがとうございました。委員の皆様方からいただきました御意見を踏まえ、今後の事務を進めてまいります。

それでは最後に、市長公室長からあいさつ申し上げます。

3 市長公室長あいさつ

本日は長時間にわたって活発に御議論いただきありがとうございました。

また、委員の皆様から御意見、感想いただき厚く御礼申し上げます。

来年度からは、本計画に基づき事業の進捗管理を実施していくこととなりますので、今後とも御協力をよろしく申し上げます。

本日のお帰りの際には交通安全に気をつけてお帰りいただきますようお願いいたします。会議終了後、お気づきの点や御意見等あれば、企画政策課まで御連絡いただきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。